

宮崎海岸侵食対策検討委員会

技術分科会

目次

- (1) 技術分科会の概要
- (2) 土砂収支の精度向上
- (3) 波向と沿岸漂砂の卓越方向の関係
- (4) 地形変化モデルの改良方針

国土交通省・宮崎県
平成21年3月10日

□ 宮崎海岸侵食対策事業の進め方・新体制

□ 細則の承認、分科会長選出

- 委員(50音順):佐藤委員(東大)、諏訪委員(国総研)、西委員(鹿大)、松田委員(熊大)、村上委員(宮大、分科会長)、吉武オブザーバー(宮大)

□ 情報共有、前提条件確認、課題抽出

- 平成19年度までの検討経緯
- 海岸侵食の実態
- 現在推定している土砂収支(漂砂特性含む)
- 地形変化予測モデルの改良方針
- 試験養浜の状況

第1回技術分科会における確認事項と検討課題

□ 確認事項

- 一ツ瀬川～宮崎港の土砂収支(宮崎港浚渫範囲の考慮、沖合いへの流出土砂の考慮等については検討課題)

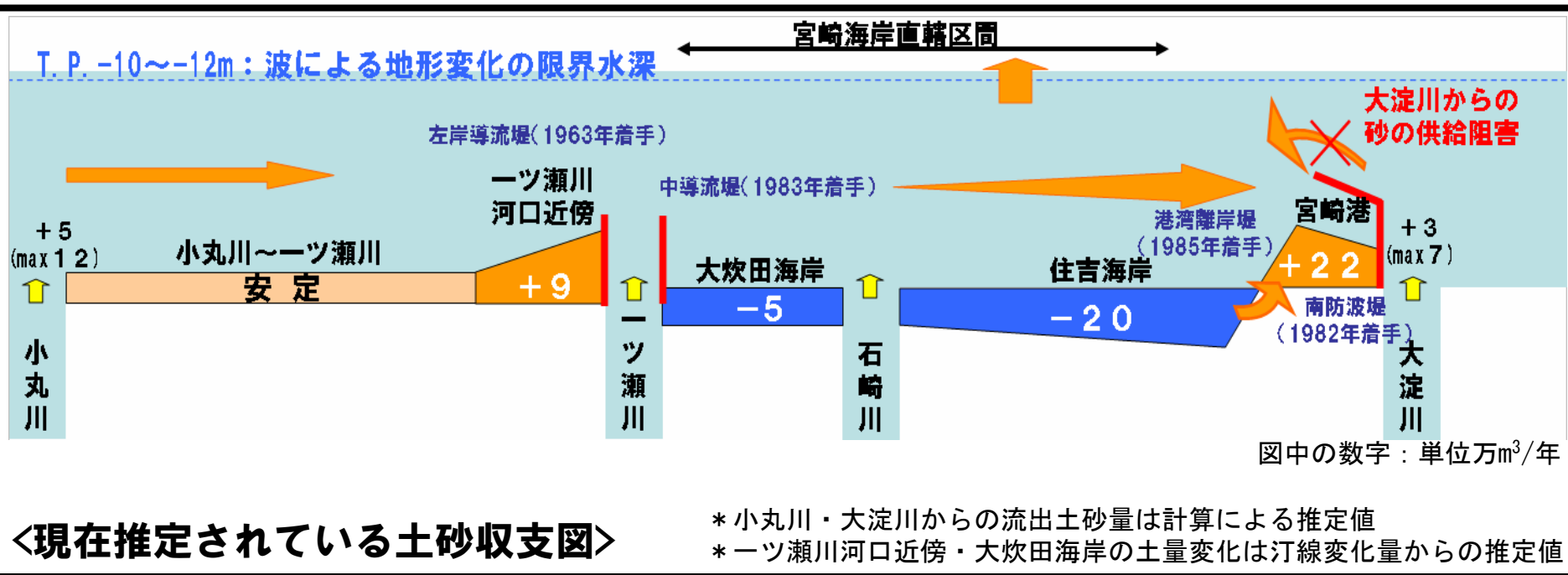
□ 検討課題

- 土砂収支の精度向上
 - 宮崎港浚渫範囲の考慮
 - 沖合いへの流出土砂の考慮
 - 実績土量変化からの沿岸漂砂量分布の推定
 - 一ツ瀬川河口周辺の土砂移動メカニズム
- 波向と沿岸漂砂の卓越方向の関係
 - トレーサー調査成果、波浪条件の妥当性
- 地形変化予測モデル改良
 - モデルの機能と評価事項の整理

技術分科会での確認事項

□ 一ツ瀬川～宮崎港の土砂収支

- 一ツ瀬川～宮崎港の土砂収支は、概ね図のとおりと推定



<現在推定されている土砂収支図>

* 小丸川・大淀川からの流出土砂量は計算による推定値

* 一ツ瀬川河口近傍・大炊田海岸の土量変化は汀線変化量からの推定値

□ 当面、重点的な調査が必要な事項

- 一ツ瀬川河口周辺の土砂移動メカニズム解明のための調査
 - 一ツ瀬川からの流出土砂についての調査
 - 外力把握のための調査(海象計による観測)
- これらの調査成果を踏まえて、海浜変形モデルの構築

第5回 宮崎海岸侵食対策検討委員会

目次

- (1) 市民との連携について
- (2) 技術分科会報告
- (3) 宮崎海岸の基礎調査結果
- (4) 養浜の経過報告
- (5) 技術分科会への付託
- (6) 今後のスケジュール案
- (7) その他

国土交通省・宮崎県
平成21年3月11日

懇談会の開催実績

懇談会 開催日時		場所	内容
第1回	平成19年6月19日（火）	佐土原総合支所	1. 住吉海岸の現状について 2. 海岸侵食対策について 3. 今後のスケジュール 4. 懇談会の進め方
	平成19年6月21日（木）	住吉公民館	
	平成19年6月24日（日）	宮崎市民プラザ	
第2回	平成19年10月10日（水）	宮崎市民プラザ ギャラリー	1. 第1回侵食対策検討委員会 （9/7開催済）について 2. 第1回懇談会のご意見に対する 回答について 3. 勉強会の開催について
第3回	平成20年2月5日（火）	佐土原総合支所 南庁舎2階 研修室	第2回侵食対策検討委員会 （1/8開催済）について
第4回	平成20年4月18日（金）	佐土原総合支所 南庁舎2階 研修室	第3回侵食対策検討委員会 （3/18開催）について
第5回	平成20年8月20日（水）	佐土原総合支所 南庁舎2階 研修室	第4回侵食対策検討委員会 （8/28開催予定）について

懇談会等でいただいた主な意見①

《対策の実施、検討について》

- 多くの方が砂浜の維持を希望している。
- 砂浜が無くなってしまっているところに、なんとか早く手を打ってほしい。
- 海岸を保全するために早く事業が進んでいくことを望む。
- 何らかの侵食対策を要望しているが、工法や目標について様々な意見。
- もっと時間をかけて抜本的対策を議論すべき。

- 一ツ葉有料道路料金所南側の侵食がひどい箇所の対策をするべき。
- 港は既に宮崎県の経済や住民の生活に組み込まれた重要な施設であるので、宮崎港の改良等による侵食対策も考えてほしい。
- 港を撤去するのが抜本的な対策になる。

- 高鍋など周辺海岸の人にも危機(侵食)を呼びかけていくべき。

- 国内外の様々な学識者の意見をきくべき。

懇談会等でいただいた主な意見②

《対策工法について》

- 港湾にたまった土砂を養浜に使えないか。
- 日本や海外での養浜の成功例・失敗例の結果を参考にして実施してもらいたい。
- 砂の動きが解明されてから養浜をするべきではないか。
- 養浜については賛成の人も多いが、ヘッドランドについては様々な意見。
- ヘッドランドの形状についてもよく検討してほしい。
- サンドバイパスや、サンドパックなども考えてほしい。
- コンクリートは入れてほしくない。
- 植生などによる侵食対策も考えてほしい。

《環境、利用への配慮について》

- 海岸に住む生き物に対する配慮が必要。
- サーフィンなどの利用に対する配慮が必要。
- 構造物の有無に関わらず海浜利用の安全性について配慮が必要。

勉強会の開催実績

海岸勉強会 開催日時		内容
第1回	平成19年12月4日（火）	「行政のしくみについて」等
第2回	平成20年1月15日（火）	「海岸侵食対策事例の紹介」等
第3回	平成20年2月13日（水）	「地元の人々の危機感について」「間伐材を用いた砂浜回復工法について」等
第4回	平成20年3月19日（水）	「砂の移動に関する話」
第5回	平成20年4月23日（水）	「海岸の生物（アカウミガメ、鳥類等）に関する話」
第6回	平成20年6月4日（水）	「今年度の事業実施予定について」
第7回	平成20年7月9日（水）	「港湾の役割について」
第8回	平成20年8月7日（木）	「前回までの宿題」：住吉海岸の離岸堤について、宮崎港の維持浚渫・等深線図・費用対効果について
第9回	平成20年9月9日（火）	「植生について」、「防潮林の役割について」
第10回	平成20年10月12日（日）	「みなさまと一緒に海岸を見、歩き、海岸への思いを語ろう」 現地見学：石崎浜試験養浜箇所、動物園裏養浜箇所、一ツ葉有料道路レストハウス
第11回	平成20年11月6日（木）	「宮崎平野と住吉地区」－土地に刻まれた歴史を考える－ 講師：宮崎県文化財保護審査会 会長 甲斐 亮典先生
第12回	平成20年12月16日（火）	「利用者から見た海岸について」
第13回	平成21年1月24日（土）	養浜工事現地見学会：石崎浜試験養浜箇所 記者発表：宮崎海岸事業の今後の進め方について（住吉公民館）
第14回	平成21年2月18日（水）	利用者からみた海岸について（漁業関係者） 宮崎海岸市民談義所の進め方について
第15回 （予定）	平成21年3月17日（火）	津波について 宮崎海岸市民談義所の進め方について

勉強会でいただいた主な意見

《勉強会について》

- よかったこと
 - それぞれの立場からの意見があることがわかった。
 - 色々の立場の思い、考えがわかって良かった。多様な意見が聞けることは、大変良い。
- こうすればもっと良くなる
 - 先進的な行政の取り組みがほしい。
 - もっといろいろな人の話がききたい。専門家だけではなく地元住民の語り部的なもの。
 - 12回の勉強会が行われたが、貴重な意見が委員会に提案されていない。国土交通省の役割をしっかりとっていただきたい。

《懇談会について》

- 市民と行政のコミュニケーションの場として十分機能が果たせていない

よろず相談所、意見箱に寄せられた意見

【平成21年3月1日現在】

7

- 宮崎海岸の過去の変化と今後を追跡しつつ、より良い方向を見出したい。
- 高度なセンサーを利用した解析と評価を期待しています。GPS、IT器機等。
- 特に、石崎浜荘を核として、現在の資源（アカウミガメ、後方海岸林、海岸植物）を活用してセラピーエリアを位置づけて保護、推進してほしい。
- 早急に護岸工事を着手し国土保全に努めるべきだ。
- ヘッドランド工法、離岸堤等の工法の良否の検討を早急に。
- サーファー等にも活用できる上記の工法が可能と考える。
- 養浜工事は経費の無駄と思う。
- 利用はしていません。防災上から重要と思っています。
- 住吉地域住民のため、一刻も早く防災工事に着工してもらいたい。
- なぜコンクリートの構造物を砂丘の上に作るのかわからない。もっといろんなことを考えて欲しい。
- 毎月、海岸勉強会が開催されているが、侵食を防ぐ為の具体的構造物（コンクリートを除く）の試験をすべきではないか。海岸勉強会でその経過を見たり、説明を開いたりすべきでは。
- 本日のお話を聞いて、あいまいな部分が多かったので、もっと具体的にわかりやすく説明していただきたいと思いました。
- 取り返しができる対策をしてほしい。
- 市民への公開や意見をもっと聞くべきだと思う。
- 長期的、応急的対策必要。 相いれないことも検討。
- 考える時間（検討してきた）を長くとることが、いいことなのでしょうか？
- できるだけ自然の状態を残した形でして欲しいと思います。
- 各支川からの水を下川（大淀川）へ一局集中して海へ流す今の河の構造を、パイプ等を設置して分散する構造へ転換していただきたい。又、ダムを設置とか必要貯水量の再検討をやって欲しい。
- 近年、潮騒の音が小さくなってきている（水の流れがひどく、ねん性が増している）
- 匂の香がなくなっている（海草が生えなくなったからかな）
- 適切な対策を行って頂きたい。
- 造園設計施工・ビ・ト・フ事業の方の話では、今の防潮林の手前（陸側）の土地を買って防潮林を作るとよい、と聞きました。
- ビ・ト・フ（10年～20年の長期の計画で造る）

④ 4月以降の養浜モニタリング調査計画案

- 試験養浜前調査をH20.11月に実施したため、H21.11月までを1サイクルと考える
- H20年度の事前・事中調査とあわせ、土砂移動機構の解明、養浜の効果把握、環境への影響把握に活用

		平成 21 年 度							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
養浜モニタリング (案)	汀線・深浅測量		●	●	●	●	●	●	●
	空中写真		●	●	●	●	●	●	●
	底質調査 (粒度・密度分析)		●	●	●	●	●	●	●
	トレンチ調査								●
	ビデオ撮影 (潜水調査)		●						●
	底生生物調査		●				●		●
	トレーサー調査 (底質採取・分析)	○ 汀線部	○ 海中部	○	○	○	○	○	○

養浜完了後・台風等のイベント前

台風等のイベント後
(動物園裏養浜供給後)

イベント後、1サイクル

『宮崎海岸侵食対策検討委員会』は、
宮崎海岸の侵食対策の技術的な事項
について検討することを『技術分科会』
に付託する

今後のスケジュール(案)

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

委員会

事業主体からの案に専門的に助言

侵食対策の
技術的な事項
の検討を付託

【第5回】

- ・市民との連携状況
- ・技術分科会報告
- ・H20基礎調査報告
- ・H20養浜経過報告
- ・技術分科会付託事項

技術分科会

事業主体からの案に技術的に助言

【第1回】

- ・これまでの技術的な検討を振り返り、課題等を抽出

【第2回】

- ・侵食対策検討における情報共有、前提条件確認、課題等を抽出

【第3回】

- ・市民意見を反映した侵食対策の検討
- ・試験施工の検討

【第4回】

- ・市民意見を反映した侵食対策の検討
- ・試験施工の検討

懇談会

勉強会

【第14回】

- ・漁業
- ・進め方

【第15回】

- ・津波
- ・進め方

市民談義所

多様な意見を出し合い、議論を深める

【第1回】

- ・侵食対策に関するこれまでの意見(不足)の確認

【第2回以降】

- ・侵食対策に関する議論
- ・試験施工に関する議論

(H21年4月以降、月1回程度の頻度で開催)